



2022年10月期 第2四半期決算説明資料

株式会社オハラ(証券コード:5218)

Jun.10th.2022



CONTENTS

1 2022年10月期 上期決算の概況

- 業績のポイント
- 業績サマリー
- 光事業
- エレクトロニクス事業
- 営業損益増減要因
- キャッシュ・フロー

2 2022年10月期 業績見通し

- 通期見通しサマリー
- 22/10期業績予想修正のまとめ
- 光事業見通しのポイント
- 光事業見通し
- エレクトロニクス事業見通しのポイント
- エレクトロニクス事業見通し
- 設備投資、減価償却費、研究開発費
- トピックス
- 中期経営計画の進捗

2022年10月期 上期決算の概況

売上高はデジタルカメラ市場及び、半導体市場向けガラスの販売増加により増収増益
半導体市場向けは、強い需要環境が継続

外部環境

- デジタルカメラ市場は、ミラーレスカメラ向け交換レンズが堅調に推移
- 露光装置市場は、半導体露光装置、FPD露光装置ともに堅調に推移

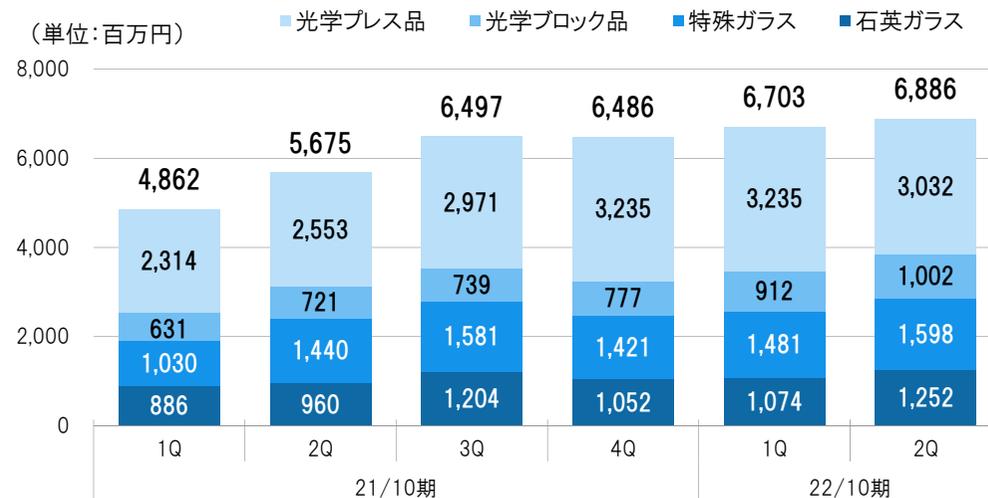
当社業績

- 売上高は、デジタルカメラ向け光学ガラスの需要増や半導体露光装置向け高均質ガラスの需要増により増収
- 営業損益は資源高の影響があるものの、生産設備の稼働率上昇などにより増益

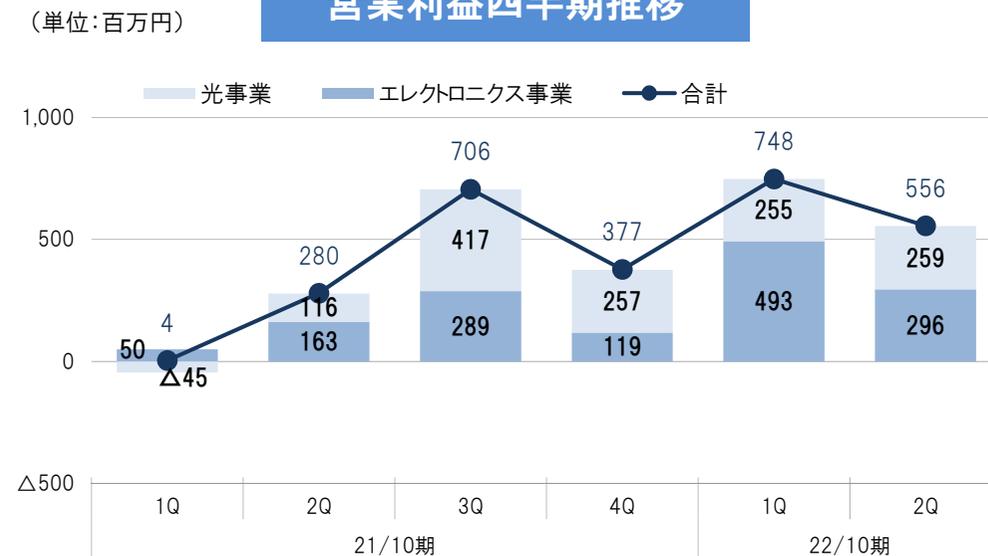
(単位:百万円、%)

	21/10期 上期	22/10期 上期	増減 増減率
売上高	10,538	13,590	3,052 29.0%
営業利益	284	1,305	1,020
[営業利益率]	2.7%	9.6%	358.8%
経常利益	501	1,602	1,100
[経常利益率]	4.8%	11.8%	219.3%
純利益 (親会社株主に帰属)	292	984	692
[純利益率]	2.8%	7.2%	236.9%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 105.95 127.29	期中平均 117.12 131.09	

売上高四半期推移



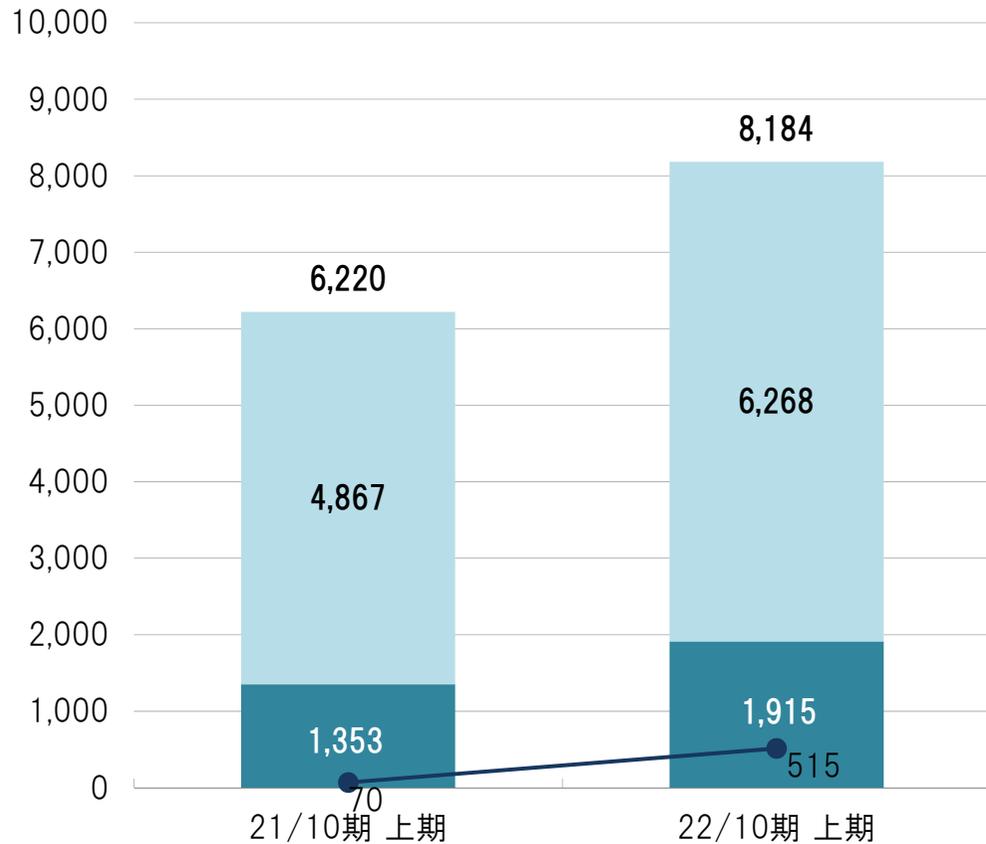
営業利益四半期推移



上期対比

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

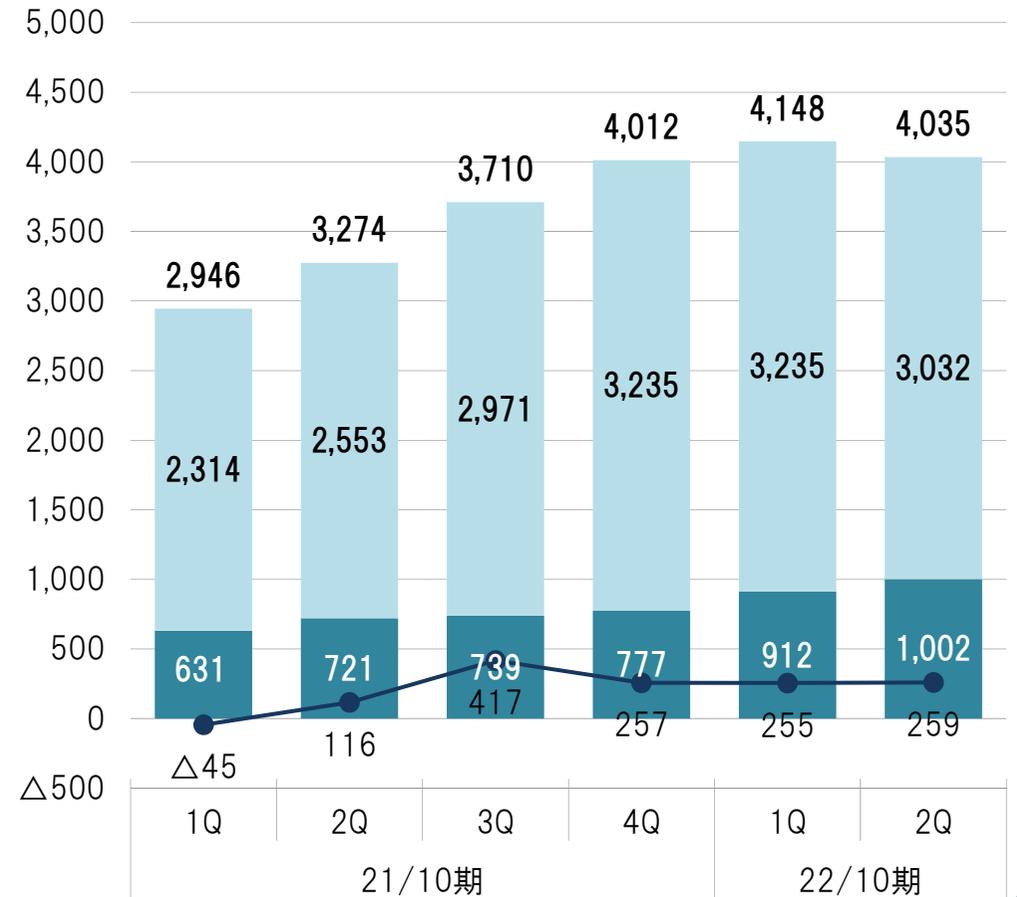
(単位:百万円)



四半期推移

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

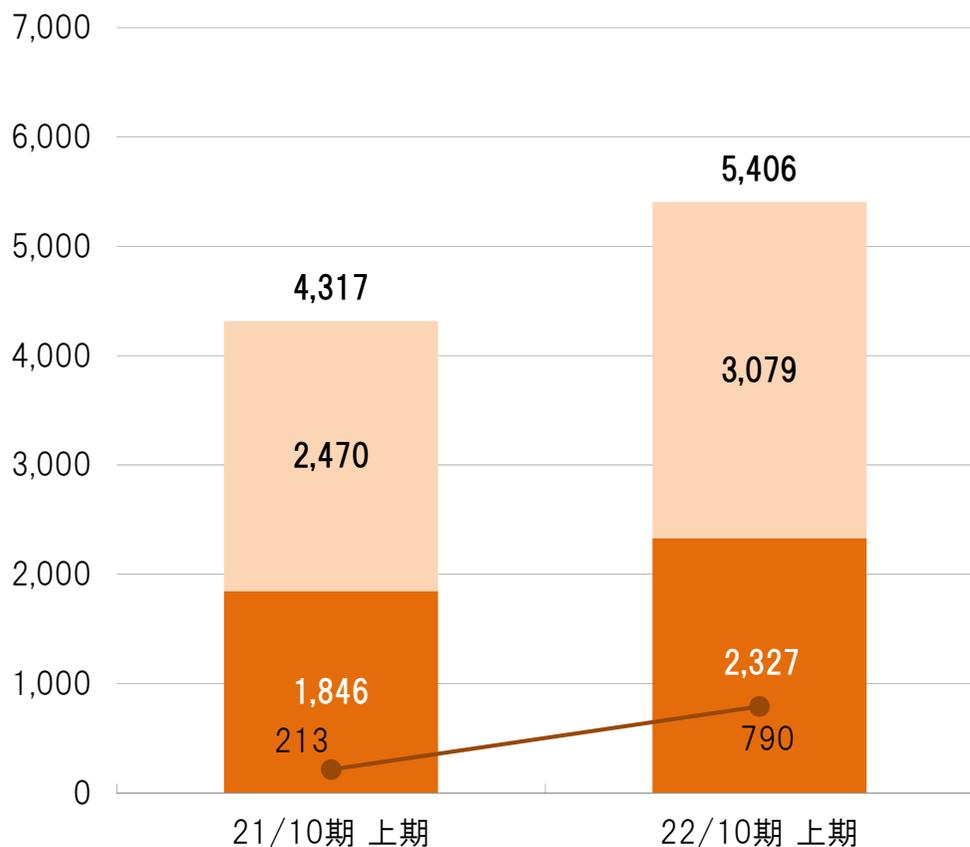
(単位:百万円)



上期対比

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

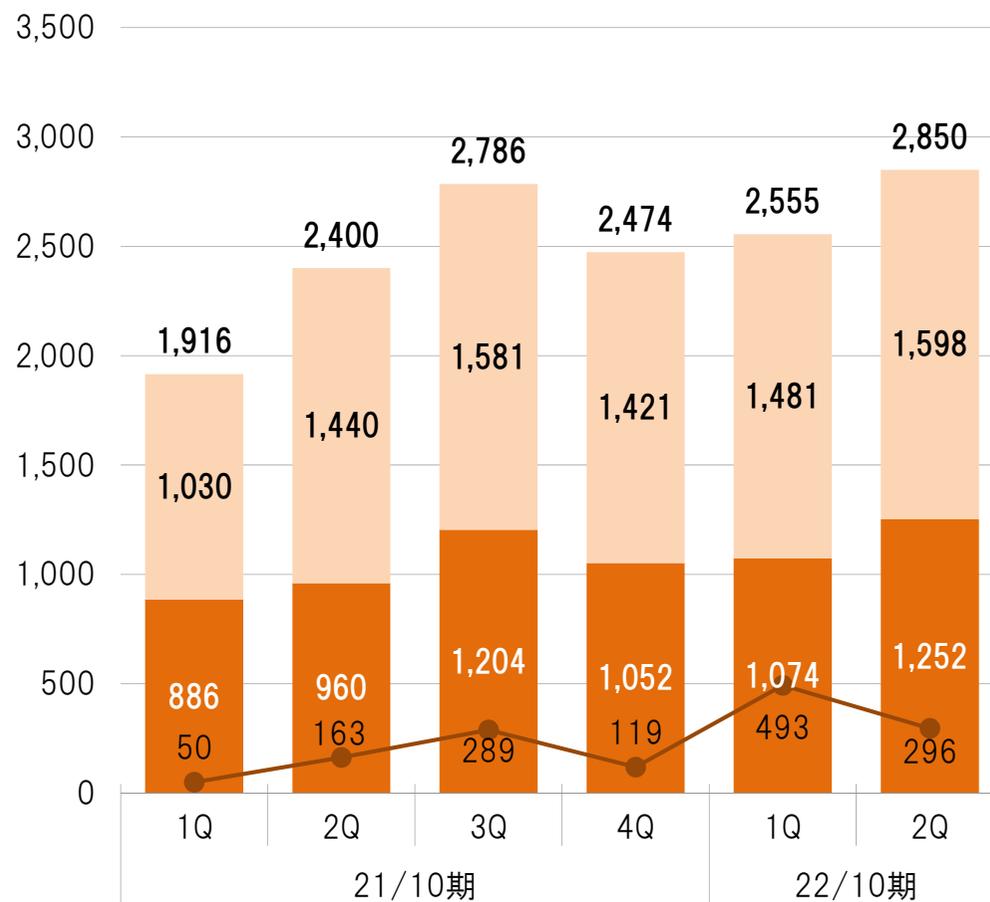
(単位:百万円)



四半期推移

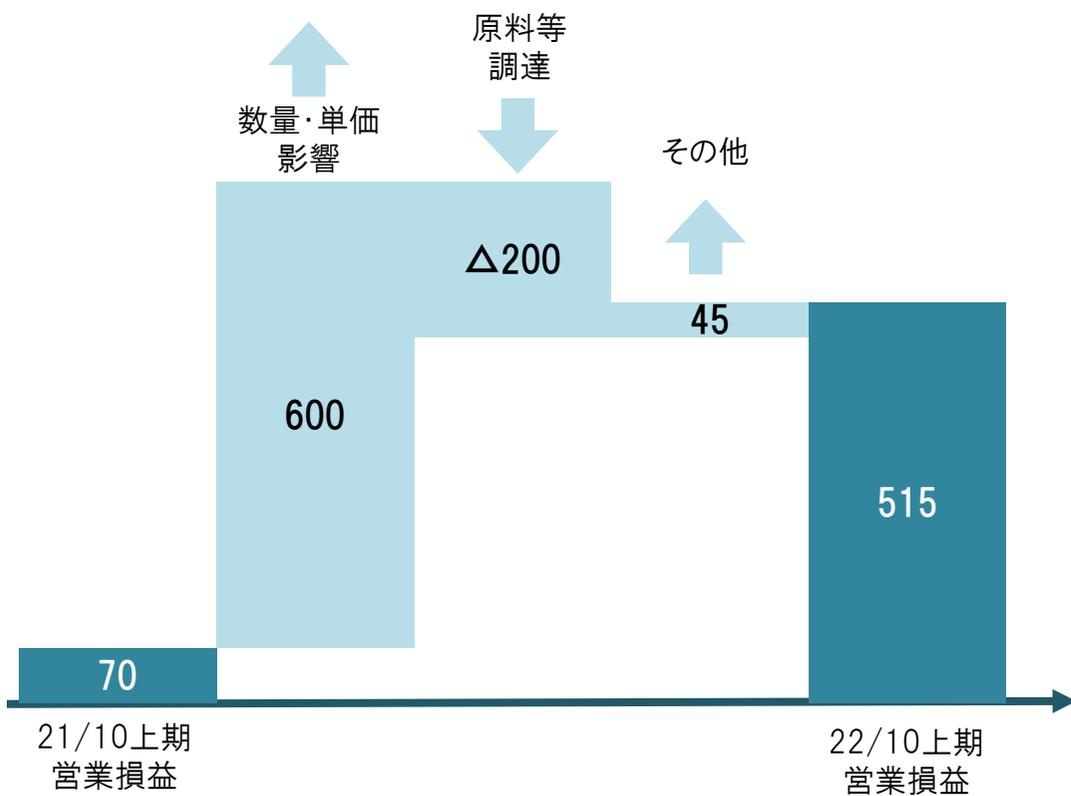
特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

(単位:百万円)



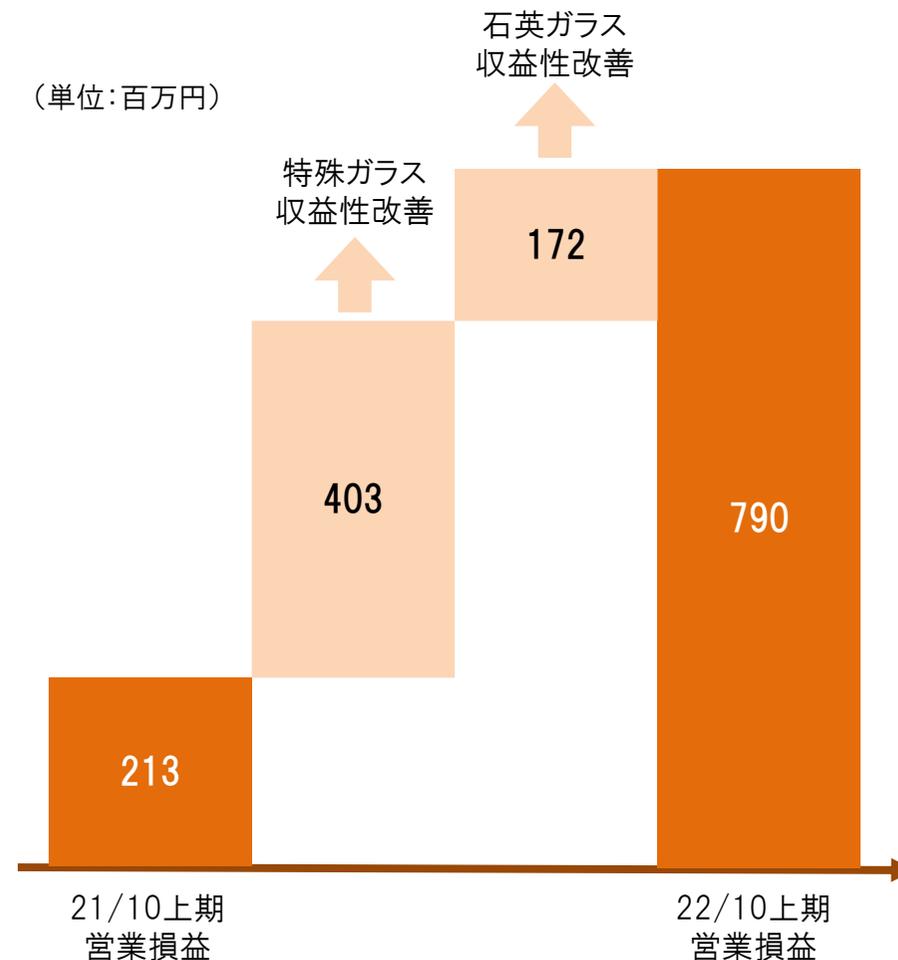
光事業

(単位:百万円)



エレクトロニクス事業

(単位:百万円)



営業CF増減主要因

(単位:百万円)

税金等調整前純利益	1,602
棚卸資産の増加	△608

投資CF増減主要因

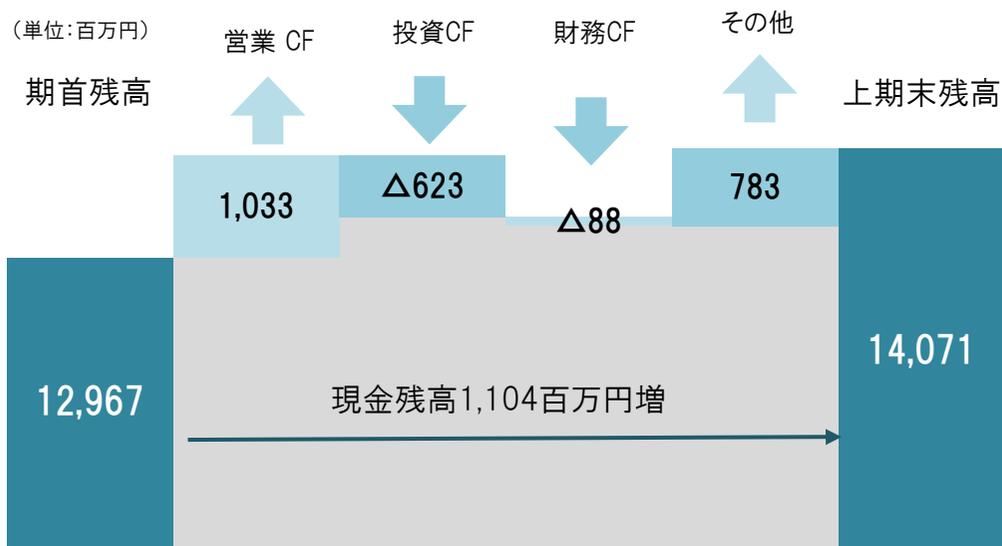
(単位:百万円)

有形固定資産の取得	△584
-----------	------

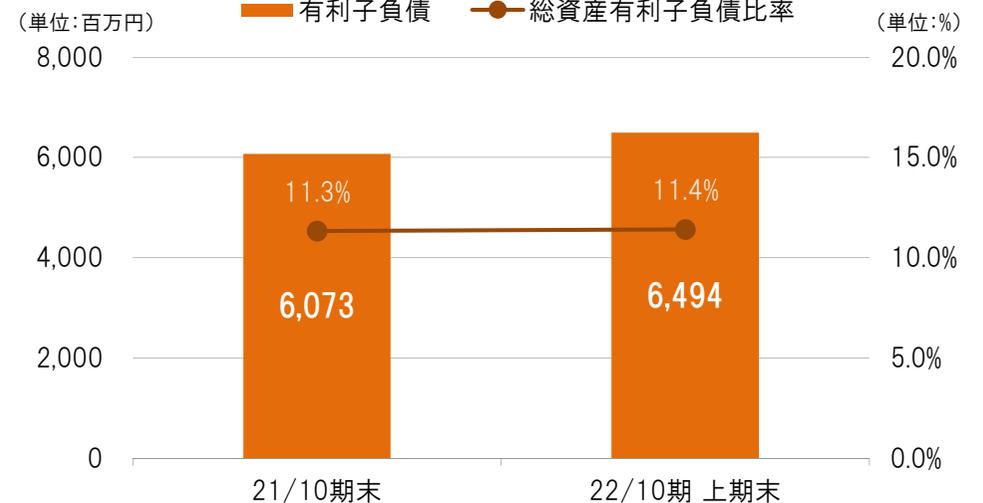
財務CF増減主要因

(単位:百万円)

有利子負債の増加	466
配当金	△365



有利子負債

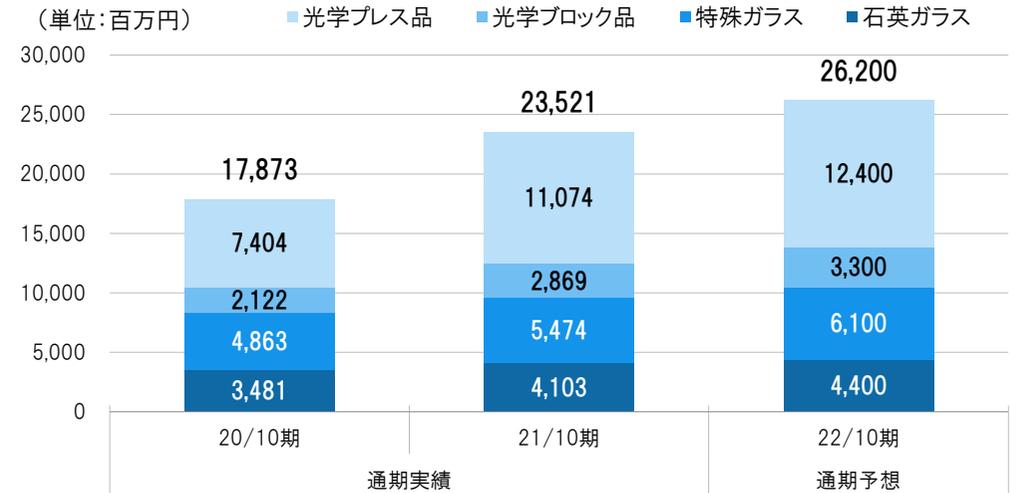


2022年10月期 業績見通し

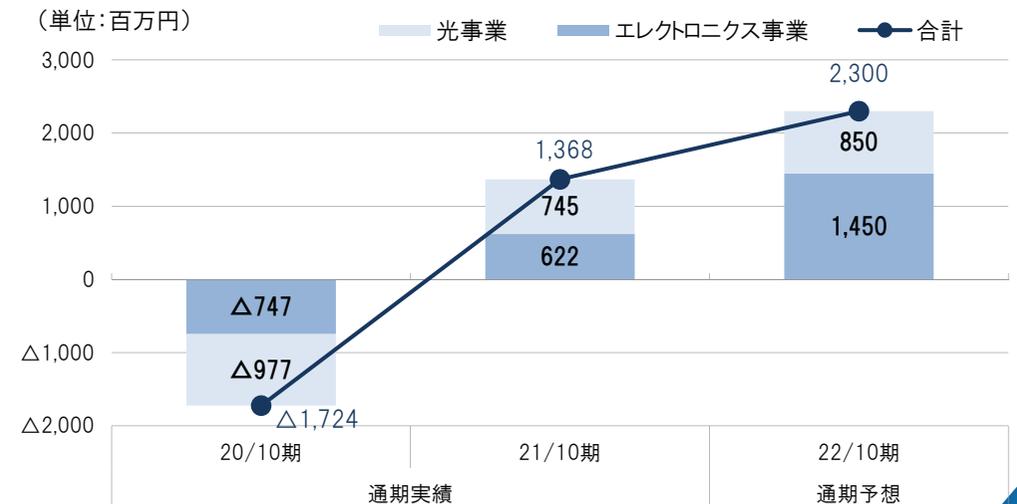
(単位:百万円、%)

	21/10期 通期	22/10期 通期予想	増減 増減率
売上高	23,521	26,200	2,678 11.4%
営業利益	1,368	2,300	931
[営業利益率]	5.8%	8.8%	68.1%
経常利益	1,733	2,700	966
[経常利益率]	7.4%	10.3%	55.8%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,460	1,900	439
[純利益率]	6.2%	7.3%	30.1%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 108.22 129.15	期中平均 120.00 130.00	
年間配当金 (円)	15.0	20.0	

売上高内訳



営業利益内訳



※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

Copyright© 2022 OHARA INC. All Rights Reserved.

22/10期業績予想修正のまとめ

上期

(単位:百万円、%)

	修正予想 (22/03/11)	実績 (22/06/10)	差異
売上高	13,000	13,590	590
光事業	8,000	8,184	184
光学プレス品	6,300	6,268	△31
光学ブロック品	1,700	1,915	215
エレクトロニクス事業	5,000	5,406	406
特殊ガラス	2,900	3,079	179
石英ガラス	2,100	2,327	227
営業利益	1,150	1,305	155
光事業	450	515	65
エレクトロニクス事業	700	790	90
経常利益	1,250	1,602	352
純利益(親会社株主に帰属)	850	984	134
為替レート	期中平均	期中平均	
円/1USD	110.00	117.12	
円/1EUR	130.00	131.09	

通期

(単位:百万円、%)

	修正予想 (22/03/11)	修正予想 (22/06/10)	増減額
売上高	25,900	26,200	300
光事業	15,700	15,700	0
光学プレス品	12,500	12,400	△100
光学ブロック品	3,200	3,300	100
エレクトロニクス事業	10,200	10,500	300
特殊ガラス	6,200	6,100	△100
石英ガラス	4,000	4,400	400
営業利益	2,200	2,300	100
光事業	850	850	0
エレクトロニクス事業	1,350	1,450	100
経常利益	2,350	2,700	350
純利益(親会社株主に帰属)	1,750	1,900	150
為替レート	期中平均	期中平均	
円/1USD	110.00	120.00	
円/1EUR	130.00	130.00	
年間配当金(円)	15.00	20.00	

光事業見通しのポイント

光学ガラス需要は、ミラーレスカメラ向け交換レンズ需要の増加に伴い堅調に推移
資源高や半導体不足といった下振れリスクが懸念点

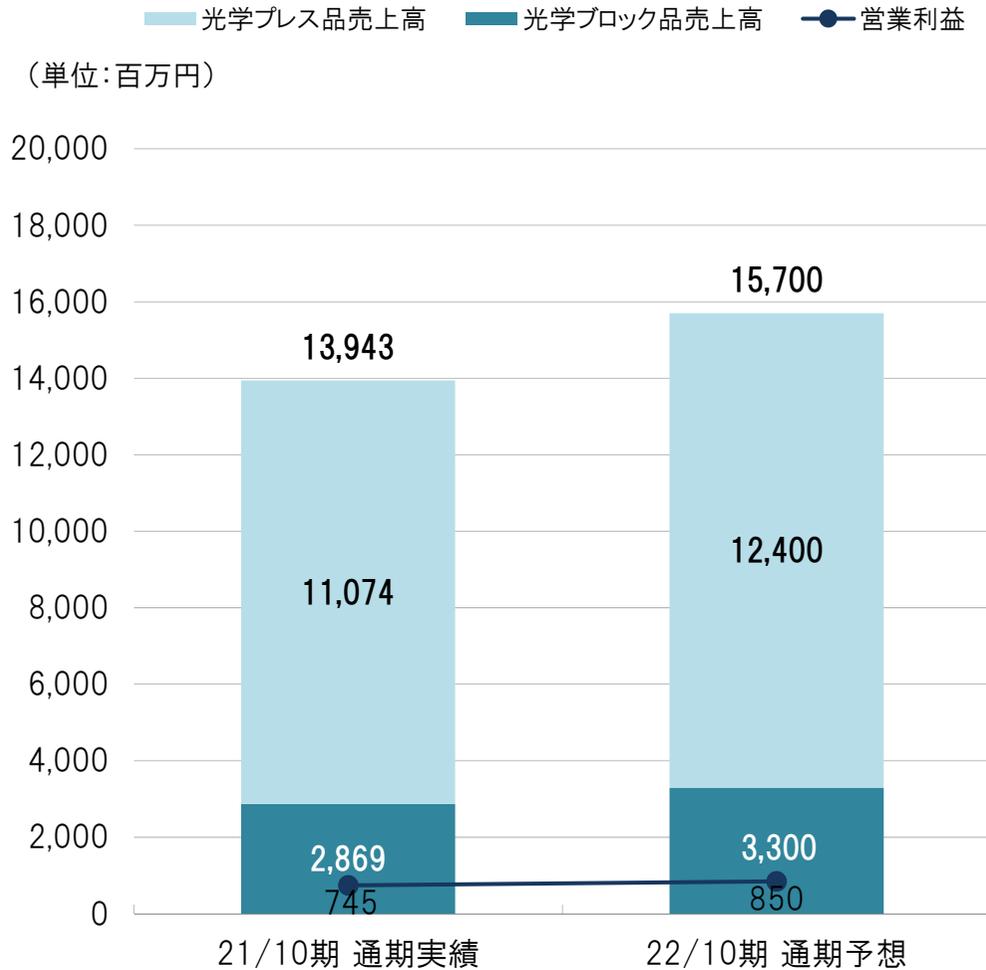
事業環境

- デジタルカメラ市場は、ミラーレスカメラ向け交換レンズが堅調に推移する見込み
- 車載カメラなどの分野では、高精細化の進展により、品質の高い光学ガラスに対するニーズが高まる見込み
- 資源高や半導体不足といった業績の下振れリスクがある

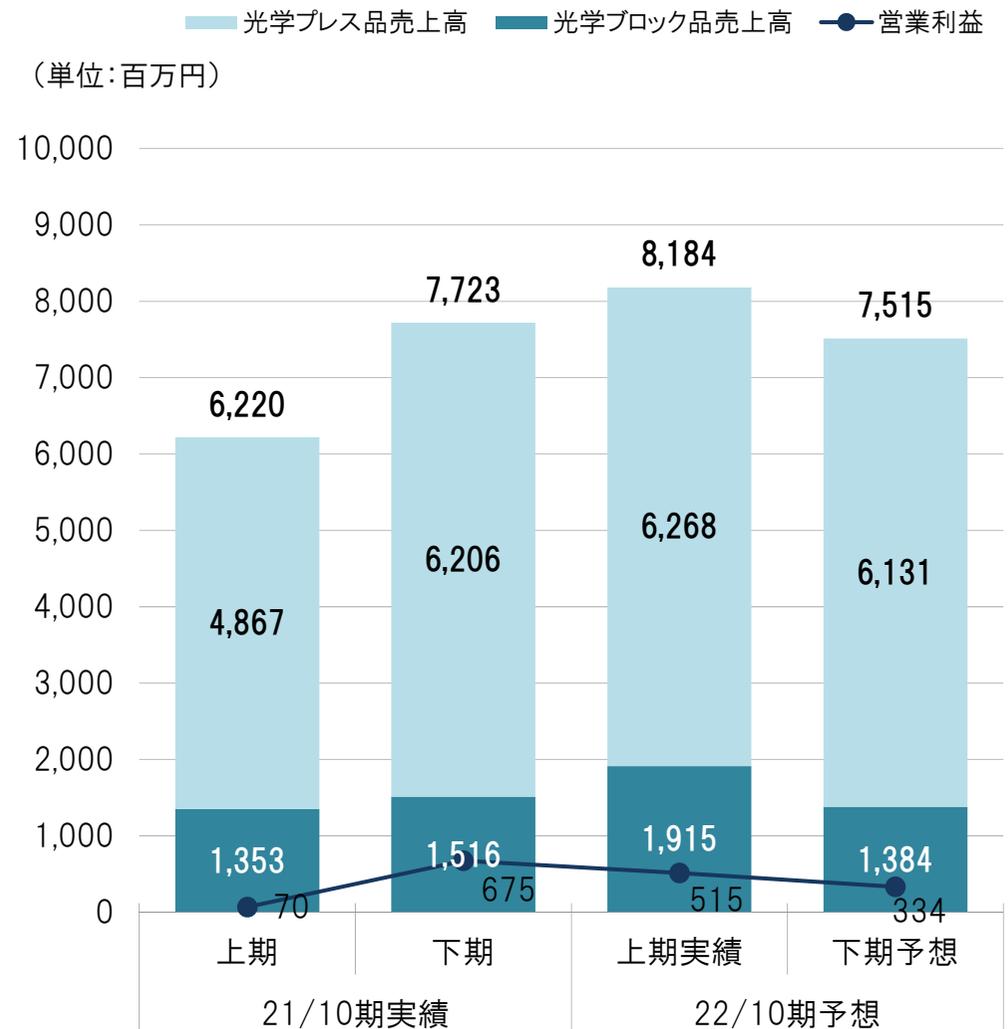
当社状況

- デジタルカメラ向け光学ガラスの需要は、ミラーレスカメラ向け交換レンズ需要の増加に伴い堅調に推移する見込み
- 上期は在庫販売効果があるなか、増産対応に時間を要することから下期売上は一時的に減少見込み
- 車載レンズ等の成長市場で拡販活動を継続

通期対比



半期推移



半導体市場向けは、強い需要環境が継続
半導体露光装置向け高均質ガラス、石英ガラスの需要が堅調に推移する見込み

事業環境

■ 露光装置市場

半導体露光装置、FPD露光装置ともに堅調に推移する見込み

■ 光通信市場

第5世代移動通信システム(5G)の環境整備に向けた設備投資が進展する見込み

当社状況

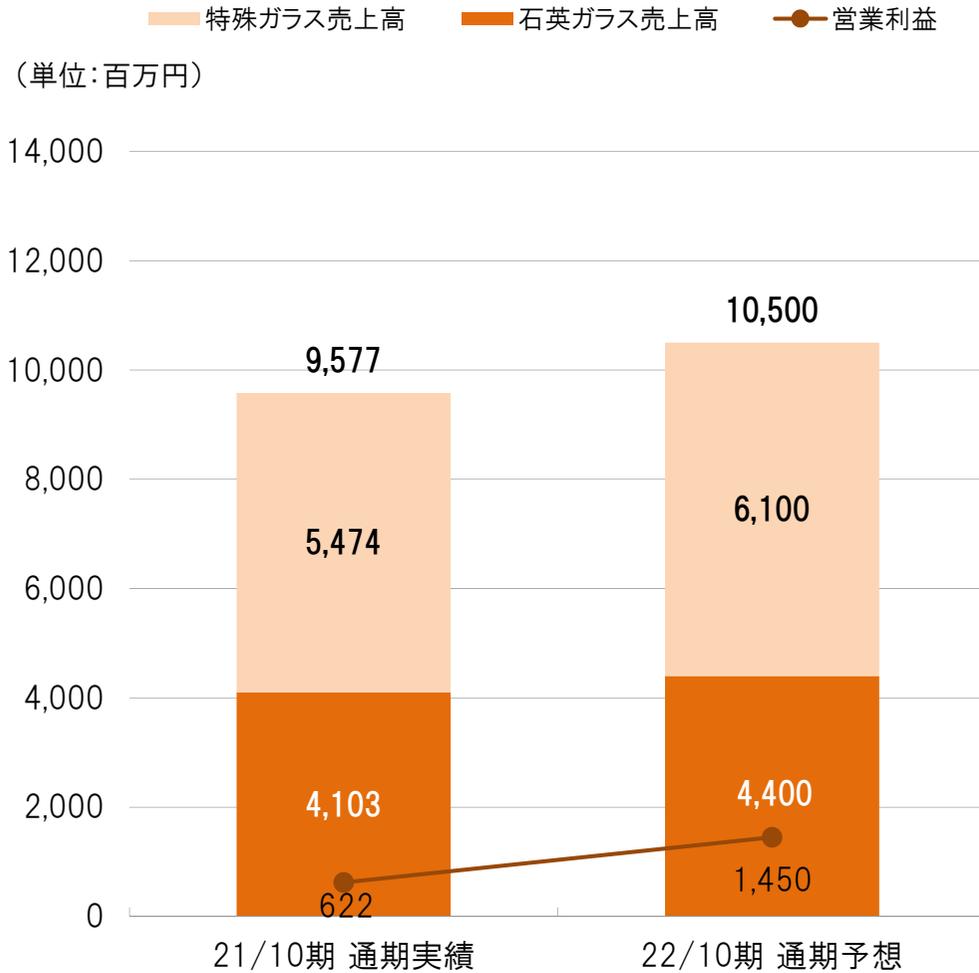
■ 半導体露光装置向け(i線向け)高均質ガラス、石英ガラスの需要は、旺盛な半導体需要を受け好調に推移する見込み。増産対応中。

■ FPD露光装置向け極低膨張ガラスセラミックスの需要は、堅調に推移する見込み

■ 光通信機器向けガラス素材の需要は、弱含みで推移する見込み

■ 「ナノセラム™」は、スマートフォン用途への採用に向けた取り組みを継続

通期対比



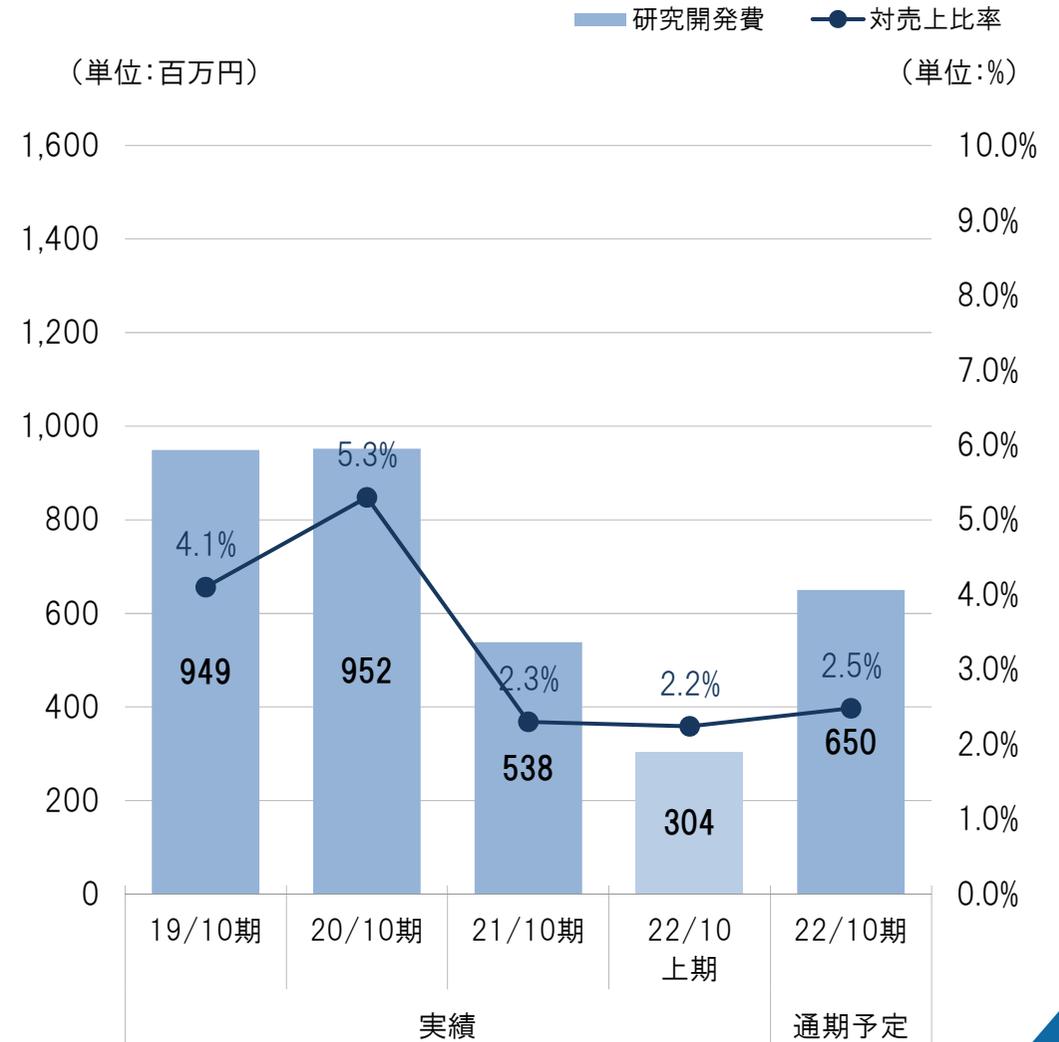
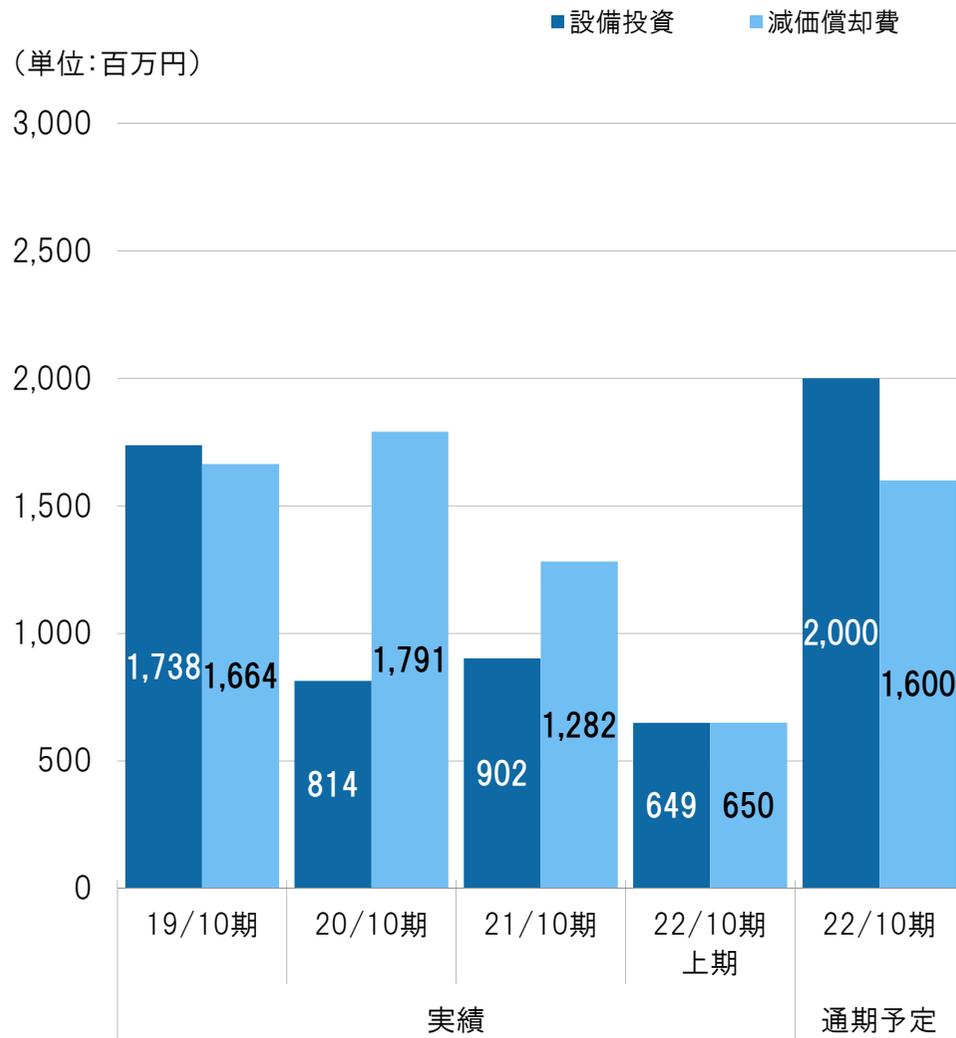
半期推移



設備投資、減価償却費、研究開発費

設備投資、減価償却費

研究開発費



半導体露光装置向けガラスの設備投資を決定

エレクトロニクス事業

- 旺盛な半導体需要に伴い、製造工程に必須な露光装置の需要が増加
- 半導体露光装置向け高均質ガラス、石英ガラスの需要が急増
- 中期的な成長ドライバーとして設備投資を決定

設備投資内容

特殊ガラス

- ・ 高均質ガラスの生産能力を40%増強
- ・ 2024年10月期の売上貢献を見込む

・線向け高均質ガラス



内部透過率及び光学的均質性が特に優れた光学ガラス。屈折率の均質性が重要な半導体露光装置用レンズや高精度な検査機用レンズに使用される。

石英ガラス

- ・ 石英ガラスの生産能力を10%増強
- ・ 2024年10月期の売上貢献を見込む

・合成石英ガラス



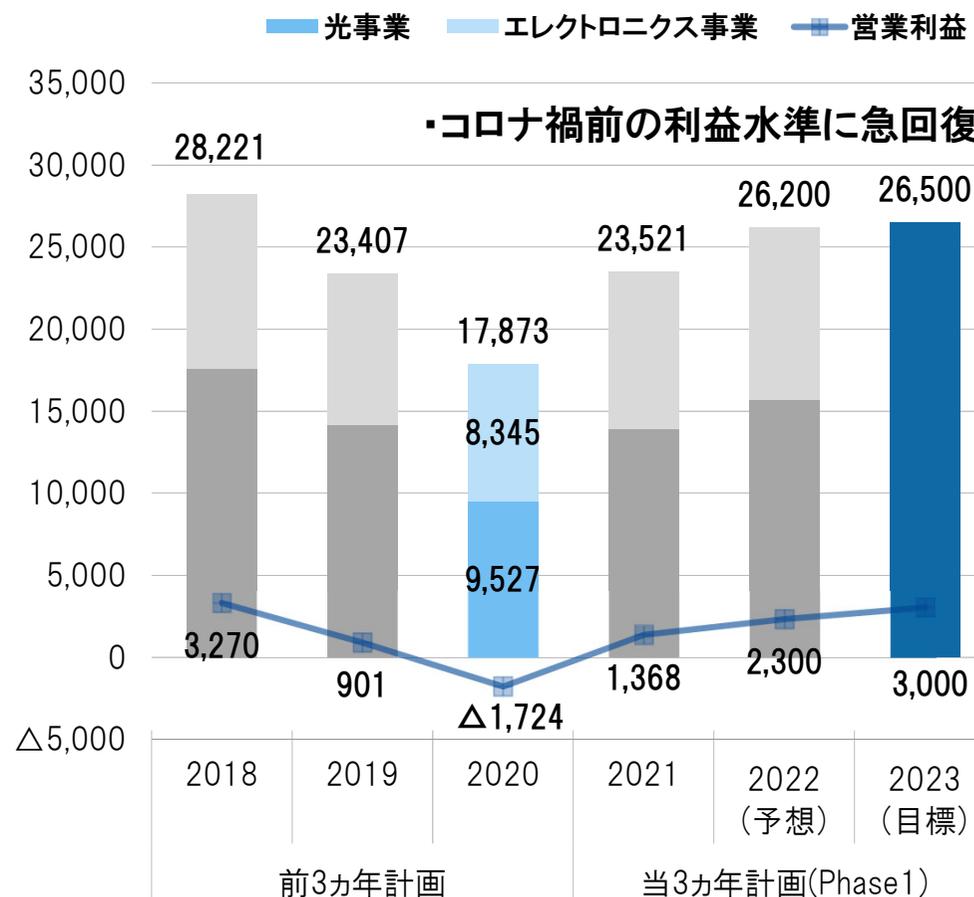
光ファイバーの製造技術から生まれた、深赤外から遠赤外まで優れた特性を発揮する高純度・高品質な合成石英。半導体/FPD露光装置や半導体基板材として使用される。

中計経営計画(Phase1)

中計方針: 2021~2023年の3カ年は、事業構造の立て直しと財務体質の改善を進め、中期計画Phase2の成長に向けて収益基盤を整える

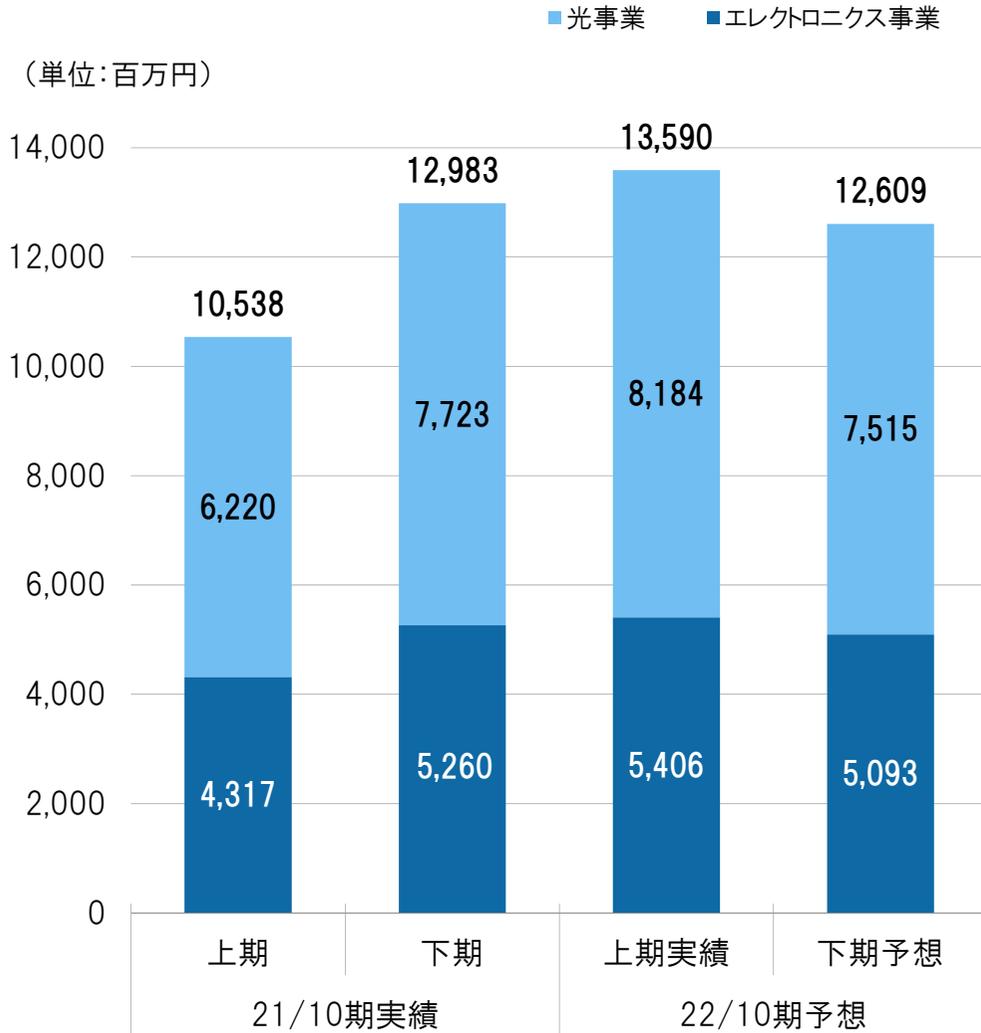
財務指標: 売上高265億円以上 営業利益30億円以上 ROE6.5%以上

	2020年実績	2023年目標
売上高	178億円	265億円以上
営業利益	△17億円	30億円以上
自己資本利益率 (ROE)	△10.9%	6.5%以上

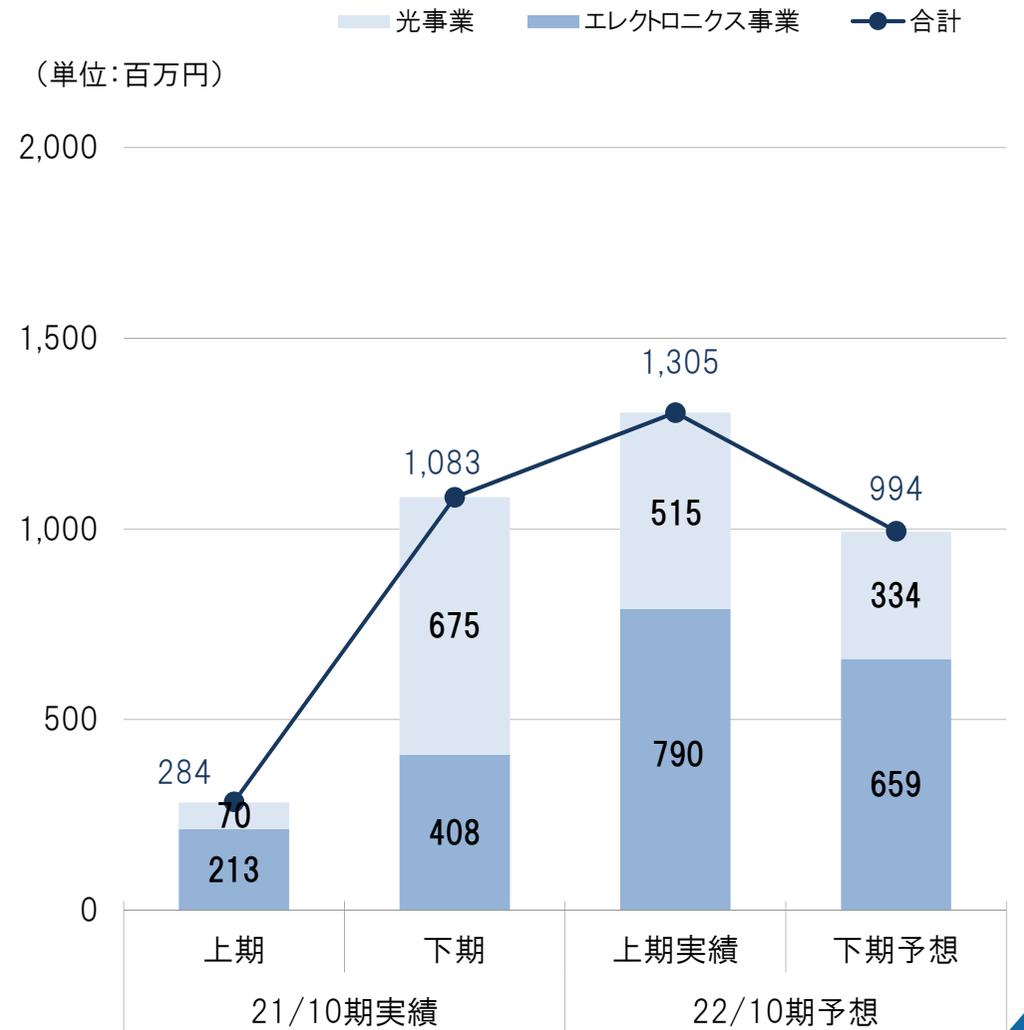


Appendix(参考資料)

売上高



営業利益



22/10期業績予想修正まとめ（上期、下期）

上期

（単位：百万円、％）

	修正予想 (22/03/11)	実績 (22/06/10)	差異
売上高	13,000	13,590	590
光事業	8,000	8,184	184
光学プレス品	6,300	6,268	△31
光学ブロック品	1,700	1,915	215
エレクトロニクス事業	5,000	5,406	406
特殊ガラス	2,900	3,079	179
石英ガラス	2,100	2,327	227
営業利益	1,150	1,305	155
光事業	450	515	65
エレクトロニクス事業	700	790	90
経常利益	1,250	1,602	352
純利益(親会社株主に帰属)	850	984	134
為替レート 円／1USD 円／1EUR	期中平均 110.00 130.00	期中平均 117.12 131.09	

下期

（単位：百万円、％）

	修正予想 (22/03/11)	予想 (22/06/10)	増減額
売上高	12,900	12,609	△290
光事業	7,700	7,515	△184
光学プレス品	6,200	6,131	△68
光学ブロック品	1,500	1,384	△115
エレクトロニクス事業	5,200	5,093	△106
特殊ガラス	3,300	3,020	△279
石英ガラス	1,900	2,072	172
営業利益	1,050	994	△55
光事業	400	334	△65
エレクトロニクス事業	650	659	9
経常利益	1,100	1,097	△2
純利益(親会社株主に帰属)	900	915	15
為替レート 円／1USD 円／1EUR	期中平均 110.00 130.00	期中平均 120.00 130.00	

商号：株式会社オハラ（OHARA INC.）
 所在地：神奈川県相模原市中央区小山1-15-30
 創立：1935年(昭和10年)10月1日
 資本金：58億5千5百万円
 事業内容：光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造、販売
 従業員：連結1,462名(単体438名) (2021年10月31日時点)
 発行済株式総数：25,450,000株
 株主数：10,209名 (2022年04月30日時点)



代表取締役社長執行役員
齋藤弘和

役員一覧

役名	氏名	職名
代表取締役社長執行役員	齋藤 弘和	経営全般
取締役専務執行役員	中島 隆	コーポレート統括
取締役常務執行役員	青木 哲也	事業部統括(営業・マーケティング統括)
取締役常務執行役員	後藤 直雪	生産、技術統括兼材料生産センター長
取締役(社外)	市村 誠	
取締役(社外)	戸倉 剛	
取締役(社外)	軒名 彰	
取締役(社外)	牧野 友香子	
常勤監査役	原田 洋宏	
監査役(社外)	高木 晴彦	
監査役(社外)	長島 和彦	
監査役(社外)	飯塚 良成	

大株主

(2022年04月30日時点)

	株主名	持株数 (千株)	持株比率
1	セイコーホールディングス(株)	4,702	19.3%
2	キヤノン(株)	4,694	19.3%
3	京橋起業(株)	4,688	19.3%
4	三光起業(株)	1,651	6.8%
5	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	857	3.6%
6	(株)トプコン	673	2.8%
7	セイコーインスツル(株)	610	2.5%
8	オリンパス(株)	400	1.6%
9	JP MORGAN CHASE BANK 385781	131	0.5%
10	(株)日本カストディ銀行(信託口)	105	0.4%

※持株比率は、自己株式1,098千株(株式給付信託保有分含む)を控除して計算

中国
小原光学(中山)有限公司 華光小原光学材料(襄陽)有限公司



日本
(株)オハラ



(株)オハラ・クオーツ



(株)オーピーシー



米国
Ohara Corporation



ドイツ
OHARA GmbH



香港
小原光學(香港)有限公司



マレーシア
OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.



台湾
台灣小原光學股份有限公司 台灣小原光學材料股份有限公司



- 1935 10月：小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
- 1936 11月：光学ガラス熔解開始
- 1944 2月：株式会社に改組、神奈川県相模原に工場を新設
- 1954 5月：白金坩堝熔解開始
- 1958 4月：ランタンガラス生産開始
- 1961 1月：連続熔解ストリップ方式生産開始
- 1962 10月：足柄光学株式会社の株式取得
- 1969 7月：オハラガラス、アポロ11号に搭載
- 1975 8月：低屈折低分散ガラス(S-FPL51)生産開始
- 1981 8月：Ohara Optical Glass Inc.(米国)(現・Ohara Corporation)設立
- 1982 3月：オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
- 1983 3月：ステッパ用ハイホモガラス($\Delta n_d \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$)量産開始
- 1984 3月：高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
- 1985 5月：株式会社オハラに社名変更
- 1986 9月：台湾小原光学股份有限公司設立
- 1987 3月：紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始
5月：有限会社オーピーシー(現・株式会社オーピーシー)設立
- 1988 8月：結晶化ガラス生産開始
- 1990 1月：OHARA GmbH(ドイツ)設立
- 1991 9月：環境対策光学ガラス生産開始
11月：OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.(マレーシア)設立
- 1993 3月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)生産開始
- 1994 11月：ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
- 1997 3月：光学ガラス推奨112種類(当時)のすべてをエコ化
- 1998 4月：ISO9001認証取得
- 1999 1月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載
- 2000 1月：低光弾性ガラス生産開始
4月：ISO14001認証取得
10月：真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
- 2002 5月：小原光学(香港)有限公司設立
6月：大規模連続熔解開始
12月：小原光学(中山)有限公司(中国)設立
- 2005 10月：東京証券取引所第一部へ株式上場
- 2006 11月：ファイバー用エコガラス(内視鏡用など)生産開始
- 2007 2月：低蛍光ガラス(顕微鏡用など)生産開始
9月：オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載
- 2008 7月：株式会社オハラ・クオーツを連結子会社化
- 2011 3月：華光小原光学材料(襄陽)有限公司(中国)設立(合併)
- 2012 3月：台湾小原光学材料股份有限公司設立
8月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCに搭載
- 2013 5月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)発売開始
- 2014 2月：ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退
3月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、TMT天体望遠鏡に採用
- 2015 3月：非球面ガラスモールドレンズ量産供給開始
12月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)発売開始
- 2016 8月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)を使用した全固体電池試作品が-30℃で駆動
- 2017 5月：世界初、車載カメラ専用光学ガラス材発売開始
12月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、超低高度衛星技術試験機「つばめ(SLATS)」に採用
- 2018 6月：NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発(第2期)へ参加
8月：非球面ガラスモールドレンズ新工場稼働開始
- 2019 1月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用
2月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、国内最大の望遠鏡「せいめい」に採用
3月：足柄光学株式会社を解散
- 2019 1月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用
- 2020 3月：オハラの固体添加材「LICGC™ PW-01」によりリチウムイオン電池の寿命が4倍長持ち
- 2022 3月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス『NANOCERAM™』が超小型光学衛星KITSUNEのカメラプロテクターとして採用

主要製品

製品カテゴリ

光学プレス品

レンズブランク



研磨プリフォーム (レンズ加工品)



ガラスモールドレンズ (GMO)



光学ブロック品



売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定

光事業	21/10期 上期累計	22/10期 上期累計
売上高(百万円)	6,220	8,184
交換レンズ(レンズ交換式カメラ)	50%	55%
プロジェクター	10%	10%
医療機器(内視鏡等)	10%	10%
車載カメラ	10%	10%
監視カメラ	10%	10%
その他	10%	5%
合計	100%	100%

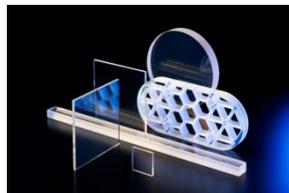
※光学ガラスを納品形態により分類。組成の種類(硝種)は約150種

主要製品

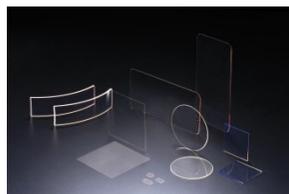
製品カテゴリ

特殊ガラス

極低膨張ガラスセラミックス
クリアセラム™-Z



耐衝撃・高硬度
クリアガラスセラミックス
ナノセラム™



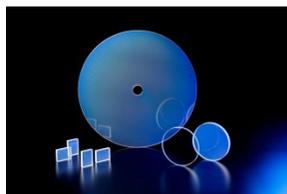
リチウムイオン伝導性
ガラスセラミックス
LICGC™



線用高均質性
光学ガラス



光通信機器向け
ガラス素材
WMS™-15



石英ガラス



売上高の用途別比率

(単位:%) ※当社想定

エレクトロニクス事業	21/10期 上期累計	22/10期 上期累計
売上高(百万円)	4,317	5,406
半導体露光装置(レンズ、構造部材)	25%	30%
FPD露光装置(レンズ、ミラー材)	15%	10%
半導体フォトマスク	10%	10%
光通信機器(DWDMフィルター材)	5%	5%
宇宙・天文(ミラー材)	5%	5%
プロジェクター(TFT基板材)	5%	5%
その他	35%	35%
合計	100%	100%

経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

コーポレート・メッセージ

ブランドスローガン

ひかる素材で、未来をひらく

オハラが願う
未来・社会の姿

安心して快適な生活。
創造と希望にあふれた社会。
健やかな地球。

オハラの
使命

いつの時代も新たな素材の可能性を追求し、
多様なパートナーとともにかたちにするので、
「生活・文化の向上」「フロンティア開拓」「地球環境の改善」に貢献する。

オハラの提供価値

ひかる素材で、お客様の「できる」につなげる。

価値観・姿勢

真摯に向き合う
妥協なきものづくり
挑戦のグッドサイクルを回す
All OHARAでいく
互いに認め合い、成長しよう

ひかる素材で、未来をひらく

OHARA

- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。